

2020(令和2)年度 全国公立高等学校
海外修学旅行・海外研修(修学旅行外)実施状況調査報告

2020(令和2)年度

コロナ禍と修学旅行

—新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が与えた修学旅行への影響—

【2020・令和2年度 全国公立高等学校・中学校修学旅行実施状況調査の報告】

付表 2021(令和3)年度 全国都道府県・政令指定都市修学旅行(海外・国内)
実施基準概要

- 資料
1. 2020(令和2)年度 新型コロナウイルス関連事項
 2. 全修協宣言文【緊急アピール】「修学旅行の灯は消さないで」
 3. 文部科学省発出文書(抜粋)
 4. 観光庁「Go To トラベル事業」
 5. 修学旅行受入自治体及び輸送機関の取組
 6. 日本旅行業協会(JATA)の取組

2022(令和4)年 2月発行

公益財団法人 全国修学旅行研究協会

新型コロナウイルス感染症と修学旅行 — 2020（令和2）年度の修学旅行の実施状況—

公益財団法人 全国修学旅行研究協会
理事長 岩瀬 正司

新型コロナウイルス感染症が全世界的に猛威を振るい、政治・経済・社会のすべての分野に大きな影響を与え、我が国も例外ではなくその脅威の下にさらされました。学校教育においても、当時の安倍晋三首相から2020（令和2）年2月27日に「全国一斉臨時休業」の要請が出され、2月28日には藤原誠文部事務次官名で3月2日から春季休業前までの全国一斉休校が通知されました。その後の更なる感染拡大に伴い、「緊急事態宣言」の発出などもあってほぼ5月末までこの未曾有の状況が続きました。この間、学校教育は大きな混乱をきたすこととなりましたが、重要な教育活動の一環である修学旅行も、例年とは全く異なる様相を示すこととなりました。

この「コロナ禍」と呼ばれる異常事態・混乱を受け、「安全性の確保」「経済性の公正」「教育性の充実」を設立理念としている当協会は、関係各方面（各地区校長会、文部科学省・観光庁・財務省、日本旅行業協会 JATA、JR 各社等）と密接な連携を取り、情報提供、要望書提出、実施手引き書作成等を行ってきました。又、2020（令和2）年6月には宣言文「修学旅行の灯を消さないで」を発出し各学校の修学旅行実施を支援していきました。しかしながら、この年の海外への修学旅行は全面実施不可能となり、国内修学旅行も延期や変更、あるいは中止を余儀なくされる事態が全国各地で数多く発生しました。

一方、この「コロナ禍」においては、修学旅行についての次のような点を改めて確認することになりました。

まず第1点は、文部科学省から、修学旅行は大切な教育活動であるから安易に中止することなく変更等の方途を探り実施の方向で検討されたい、という通知が再三にわたって出されたことです。異例ともいえる文部科学省の通知でしたが、このことによって、修学旅行の重要性と教育的意義が再認識されました。2点目は、修学旅行は他国にも例を見ない日本の特色ある教育活動であるとともに、日本人の旅の原点でもあり文化そのものであるという点です。日本人のほぼ全てが経験する共通の文化体験であり、それゆえに自分も経験したように我が子にも修学旅行を経験させたいという保護者の思いが強く出されました。そして第3点目、それは、修学旅行は運動会や文化祭のような学校単独では決して実施できない、旅行会社・交通機関・宿泊施設・見学地等々の様々な組織や人々によって支えられている特別かつ総合的な教育活動である、ということです。修学旅行は経済活動の側面を持つ教育活動であり、日本社会に確固たる地位を築いていることが改めて確認されました。

この「コロナ禍」における修学旅行についての実態を正確に調査・把握し記録しておくことは非常に大切なことです。幸い当協会では、関係各方面の協力を得て、毎年高等学校の海外修学旅行の実施状況調査をほぼ悉皆に近い形で実施しており、併せて公立高等学校と公立中学校の修学旅行全般の調査をしております。奇しくもこの調査が「コロナ禍」における修学旅行の実態を余すところなく示すこととなってしまいました。

この「コロナ禍」の異常事態の収束はまだ見えませんが、当協会のこの冊子を有効活用していただき、今後の修学旅行の在り方を考える一助になればそれに優る喜びはありません。

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の方法と内容	1
2.	集計方法	1
3.	2020(令和2)年度 全国高等学校・中学校の概要	1
II	2020(令和2)年度 全国公私立高等学校・中学校修学旅行実施状況	2
1.	高等学校	2
(1)	実施校数・実施率/参加生徒数・参加率	2
(2)	都道府県別実施状況	2
2.	中学校	4
(1)	実施校数・実施率/参加生徒数・参加率	4
(2)	都道府県別実施状況	4
III	2020(令和2)年度 全国公私立高等学校の修学旅行方面別実施状況	6
1.	公立高等学校	6
(1)	実施校数	6
(2)	参加生徒数	8
(3)	都道府県別旅行方面の変容(令和元年度との比較)	10
2.	私立高等学校	20
(1)	実施校数	20
(2)	参加生徒数	21
(3)	都道府県別旅行方面	23
IV	2020(令和2)年度 全国公私立中学校の修学旅行方面別実施状況	28
1.	公立中学校	28
(1)	実施校数	28
(2)	参加生徒数	30
(3)	都道府県別旅行方面の変容(令和元年度との比較)	32
2.	私立中学校	42
(1)	実施校数	42
(2)	参加生徒数	43
(3)	都道府県別旅行方面	45
V	2020(令和2)年度 国内航空機利用修学旅行の実施状況	50
VI	修学旅行中止に伴う「代替行事」	55
<付 表>		
	2021(令和3)年度 全国都道府県・政令指定都市修学旅行実施基準概要	57
<資 料>		75
1.	2020(令和2)年度 新型コロナウイルス関連事項	76
2.	全修協宣言文【緊急アピール】「修学旅行の灯は消さないで」	77
3.	文部科学省発出文書	78
4.	観光庁「Go To トラベル事業」	107
5.	修学旅行受入自治体及び輸送機関の取組	116
6.	日本旅行業協会(JATA)の取組	151
<編集後記>	(公益財団法人 全国修学旅行研究協会 調査部)	

I 調査の概要

1. 調査の方法と内容

各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各都道府県私立学校担当部署に、所管する高等学校、中学校の修学旅行の実施状況等について調査を依頼し、以下のとおりまとめた。

なお、一部実施状況ならびに実施内容を把握できていない箇所については、本協会でも独自調査を行った。愛知県の私立学校に関しては、愛知県私立中学高等学校協会の協力を得た。

- (1) 調査の期日 2021(令和3)年5月1日現在
- (2) 調査対象 各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各都道府県私立学校所管部署
- (3) 調査内容
 - イ. 2020(令和2)年度修学旅行方面別実施状況(校数・実施率、参加生徒数・参加率)
 - ロ. 2020(令和2)年度国内航空機利用修学旅行の実施状況
 - ハ. 修学旅行中止に伴う「代替行事」
 - ニ. 2021(令和3)年度修学旅行実施基準
 - ホ. 資料(新型コロナウイルス関連事項、文部科学省発出文書等)

2. 集計方法

- データは各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各都道府県私立学校所管部署からのデータを集計し、一部本協会の調査データを加えた。
- 方面別実施状況は、クラス別・班別及び課程別での実施や複数方面にまたがる場合も1校として集計のため、設置校数・生徒数と一致しない。
県によって人数のデータが把握ができていないところは、文部科学省学校基本調査のデータを基に参考数値として集計した。
- 私立校の、修学旅行方面別実施状況調査は、今年度が初めてのため、前(令和元)年度との比較表は作成していない。また、所管部署で国内修学旅行の集計や取り纏めを行っているところは少なく「把握できている範囲」の回答を掲載した。

3. 2020(令和2)年度 全国高等学校・中学校の概要

[高等学校]

- 学校数は4,874校(本校4,783校、分校91校)で、前年度より13校減少(本校17減、分校4増)している。
 - ・ 公立の学校数は3,537校で、前年度より13校減少(本校17減、分校4増)している。
 - ・ 国立の学校数は15校で、前年度と同数である。
 - ・ 私立の学校数は1,322校で、前年度と同数である。
 生徒数は約309万人で前年度より約8万人減少している。(中等教育学校を含むと約310万人)
- 中等教育学校数は56校(国立4校、公立33校、私立19校)で、2校増加した。
- 修学旅行対象学年(全日制2年、定時制3年、専科、別科、中等教育後期課程)の生徒数は、約103万5千人で前年度より約2万人減少している。

[中学校]

- 学校数は10,142校(本校10,063校、分校79校)で、前年度より80校減少(本校78減、分校2減)している。
 - ・ 公立の学校数は9,291校で、前年度より80校減少している。
 - ・ 国立の学校数は69校で、前年度より1校減少している。
 - ・ 私立の学校数は782校で、前年度より1校増加している。
 生徒数は約321万人で前年度とほぼ同数である。
- 修学旅行対象学年(3年生基準)の生徒数は、約105万1千人で前年度より約3万5千人減少している。

(資料：令和2年度文部科学省学校基本調査)

<編集後記>

2020（令和2）年度、新型コロナウイルス感染症の世界的流行（パンデミック）により、修学旅行は大きな影響を受けました。本調査「全国公私立高等学校 海外修学旅行・海外研修実施状況調査」は、20年以上前から、グローバル化の進む中において、国際的な人材教育を目的として、海外修学旅行に取り組む学校の推移を見守ってきた調査です。海外修学旅行は国際情勢に左右されながらも、増加傾向を辿り、まさにこれからの日本を担う若者たちへの期待を感じられる指標として本調査は活用されてきました。

しかし残念ながら、このパンデミックにより、2020（令和2）年度の海外への渡航は制限され、海外修学旅行は事実上不可能となりました。

そこで今年度の調査を、「コロナ禍と修学旅行」として、全国の中学校・高等学校が修学旅行において新型コロナウイルス感染症にどのような対応を執ってきたのか、その結果をまとめる形とすることとしました。当協会が長年実施してきた、「海外修学旅行調査」は、コロナ収束後、必ず復活するであろう海外修学旅行のために、その調査名は残してまいります。

本調査では、このコロナ禍で修学旅行を延期、方面変更等を重ね、実施または中止した結果をまとめました。各都道府県で、例年とは全く違った修学旅行が実施されたことが明らかになりました。

実施した学校は、感染対策など、課題を一つ一つ解決した上で、大変な苦勞をされたことと思われまふ。また、残念ながら中止という判断をされた学校についても、中止に至る経緯をすべて知る術はありませんが、学校内では、様々な検討がなされ苦澁の決断をされたことは容易に想像ができます。各学校の先生方のご苦勞に改めて敬意を表します。

結果だけを見れば、当該学年の生徒たちにとっては、大変残念な実態になりました。しかし、一方では、何とか修学旅行が実施できるように、様々な人たちが、それぞれの立場で動いていただきました。そのことを理解していただくために実施状況結果だけでなく、関連する資料を添付いたしました。

文部科学省をはじめとする国の行政機関や地方自治体、修学旅行を受入れている各地の関連施設、安全・安心を使命とする輸送機関、それらと協力し素晴らしい修学旅行を提供する旅行業界など、多くの皆様の支えによって修学旅行は行われていることも、本調査から受け取っていただければ幸いです。そして、一日も早い感染症の収束を願っています。

最後に、本調査にご協力をいただいた、各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各都道府県私立学校担当部署の皆様方に心より感謝申し上げます。

（公益財団法人 全国修学旅行研究協会 調査部 石原輝紀）

本報告書のデータは、公益財団法人 全国修学旅行研究協会の公式ホームページ【修学旅行ドットコム (<http://shugakuryoko.com/>)】内の、「調査・研究活動」ページに、PDF形式で全て掲載しております。

本報告書は毎年（2000年分より）ホームページ上に掲載しており、最新版は後日の掲載となります。（最新版の掲載時期は2月下旬を予定）

本報告書とは別に、中学校の調査については、別途、下記三地区の公立中学校の修学旅行委員会で実施しているアンケートを集約した「修学旅行の実施状況調査」等として同ホームページ内に掲載しております。

- ・ 関東地区公立中学校修学旅行委員会
（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県）
- ・ 東海三県中学校修学旅行委員会
（愛知県、岐阜県、三重県）
- ・ 近畿地区公立中学校修学旅行委員会
（滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、和歌山県）

[QRコード]



右記QRコードは、修学旅行ドットコムのトップページへリンクしております。
スマートフォン専用ページではありません。

2020(令和2)年度 全国公立高等学校海外修学旅行・海外研修(修学旅行外)実施状況調査報告

2020(令和2)年度 コロナ禍と修学旅行

—新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が与えた修学旅行への影響—

【2020・令和2年度 全国公立高等学校・中学校修学旅行実施状況調査の報告】

付 2021(令和3)年度 全国都道府県・政令指定都市修学旅行実施基準概要

2022(令和4)年2月

発行 公益財団法人 全国修学旅行研究協会
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8 九段南ビル6F
TEL 03-5275-6651 / FAX 03-5275-6653
E-mail shuryo@h2.dion.ne.jp
URL <http://shugakuryoko.com/> (修学旅行ドットコム)